

[様式 9 - 1]

福祉サービス等第三者評価結果

総合評価

受診施設名	京都市南保育所	施設種別	保育所
評価機関名	一般社団法人 京都府保育協会		

平成 30 年 12 月 26 日

総 評	<p>京都市南保育所は昭和44年に開設され、東寺にほど近い、昔ながらの民家が残りつつも、新しいマンションやホテル、ゲストハウスなども多く建てられている地域にある保育所です。一方で東寺などのお寺や公園など、子どもたちが遊ぶ環境も周辺に多くあります。</p> <p>保育所の理念として「子ども一人ひとりの最善の利益を図るとともに、保護者の子育て支援を目指して保育にあたる」を掲げ、子ども一人一人を主体として受け止め、主体としての心を育てるようコーナー保育を中心に、年齢や発達に応じた玩具や環境を整え、子ども自身が興味や関心を持ち、自ら意欲を持って遊べるよう工夫しています。職員の手作りおもちゃも多くコーナー保育の環境も充実しており、保育士の丁寧な子どもへのかかわりと併せ、保育の質向上に向けて取り組んでいることが伺えます。</p> <p>地域子育て支援拠点事業も実施し、「おうちにはいくしさん」と称し、子育てに悩みを抱える家庭への訪問活動を行っており、子育ての悩みを一緒に考え受け止めることで育児不安の軽減に繋がるよう取り組んでいます。また、園の遊技場を使用し、未就園児の親子がトランポリンやマット、ままごとコーナーなど様々な遊びを通して交流できるようにしています。</p> <p>管理者を中心に第三者評価受診に向けての取り組みも組織的に実施しており、保育の質が向上するよう職員間で協力する体制がありました。園全体で子どもたちが安心して過ごせるよう努めています。</p>
特に良かった点(※)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第三者評価を毎年、市営保育所間で順番に受診しており、その評価結果を共有し改善に繋げています。 ・ 近隣の小学校が実施する運動会や避難訓練、作品展に幼児が参加し、年長の作品も展示してもらうなど交流を図っています。また、保育所が実施する人形劇や和太鼓演奏、季節の行事、作品展に地域の親子や民間園の幼児を招いて交流を深めています。 ・ 地域子育て支援事業及び地域子育て支援拠点事業を実施し、毎日の園庭開放や、親子半日体験、離乳食試食会などを行っています。また、豚汁パーティーも災害時の対応を想定した一環として地域の親子が参加できるよう開催しています。
特に改善が望まれる点(※)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の福祉ニーズや経営課題等を見通した事業計画を策定されるとより良いでしょう。 ・ 苦情内容や解決結果、アンケート結果や園の対応や方針などを、内容に配慮したうえで保護者に知らせるなど公表への工夫を行うとより良いでしょう。

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

【保育所版】 評価結果対比シート

(注)判断基準「a b c」について

【平成28年度以前の基準とは異なるため、当評価結果との対比はできませんのでご留意下さい】

(a)は質の向上を目指す際の目安となる状態、(b)は多くの施設・事業所の状態、(c)はb以上の取り組みとなることを期待する状態、に改定されました。改訂後の評価基準に基づいた評価では(b)が一般的な取り組み水準となり、従前に比べて(b)の対象範囲が広がります。また、改正前に(a)であった評価項目が改正後の再受診で(a)を得られなくなる可能性もあります。

受診施設名	京都市南保育所
施設種別	保育所
評価機関名	一般社団法人 京都府保育協会
訪問調査日	平成30年12月26日

保育所評価基準 対比シート (H29年4月～)

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	通番	頁番	評価細目	評価結果	
					自己評価	第三者評価
I-1 理念・基本方針	I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	1	①	理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a	a
I-2 経営状況の把握	I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	2	①	事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a	a
		3	②	経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	a	a
I-3 事業計画の策定	I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	4	①	中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	非該当	非該当
		5	②	中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	非該当	非該当
	I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。	6	①	事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a	b
		7	②	事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	a	b
I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組	I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	8	①	保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a	a
		9	②	評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a	a

【自由記述欄】

・京都市子ども若者はぐくみ局幼保総合支援室が作成した「市営保育所運営方針」及び「京都市営保育所保育の計画」に基づき、南保育所独自の指導計画を策定しています。保育の理念、方針、目標は明文化されており、入園のしおり(重要事項説明書)やホームページ、園内に明示されています。

・南区の社会福祉協議会との連携により地域ニーズの把握に努めているほか、月2回実施している市営保育所所長会には京都市幼保総合支援室も出席し、京都市の子どもを含む人口動態や福祉ニーズを反映した市の方針等の情報交換があります。中・長期的な計画は市予算との関係から個別での策定は難しく非該当とします。

・年間の保育の計画や行事等の計画は組織的に策定され、職員間で周知されています。また、市全体として医療的ケア児の受け入れ体制の充実を図っています。今後は、そういった地域の福祉ニーズや経営課題等を見通した事業計画を策定されるとより良いでしょう。

・第三者評価を毎年、市営保育所間で順番に受診しており、その評価結果を共有し改善に繋げています。その内容は月1回開催する所長研究会などでも取り上げると共に、研修や資質向上に対する取り組みも実施し、日常的な保育の計画や記録に対する評価・反省の実施と合わせて保育の質向上に繋がるよう取り組んでいます。市営保育所間で人事異動や人事交流の機会を通じて、新しい視点での評価・見直しを行っています。また、マニュアル冊子を作成しており、項目ごとに目次を整備し、改定記録も明記し、見やすいように整理されています。

II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-1 管理者の責任とリーダーシップ	II-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。	10	① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a	a
		11	② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a	a
	II-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	12	① 保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a	a
		13	② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a	a
II-2 福祉人材の確保・育成	II-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	14	① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a	a
		15	② 総合的な人事管理が行われている。	a	a
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	16	① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a	a
		II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	17	① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a
	18		② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a	a
	19		③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a	a
II-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。	20	① 実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a	a	
	II-3 運営の透明性の確保	II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	21	① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a
22			② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	b	b
II-4 地域との交流、地域貢献	II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	23	① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a	a
		24	② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a	a
	II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。	25	① 保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a	a
		II-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。	26	① 保育所が有する機能を地域に還元している。	a
	27		② 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a	a

[自由記述欄]

・施設長の役割と責任は職務分掌に明示されており、施設長不在時の責任者も順に明示しています。有事における組織内連絡法も揭示されています。遵守すべき法令や関係法令等について職員が確認したい時にすぐに確認できるようリスト化しています。

・管理者は、職員会議の中で保育の振り返りや言語化を行い、評価・反省に繋げています。また、職場研修委員会を設置し、職員が中心となって必要な研修を計画し、主体的に取り組めるよう努めています。それ以外にも市の研修体系に沿ったものや自主研修などにも取り組み、保育に意欲的に取り組めるよう配慮しています。また、経営の改善や業務の実行性を高められるよう、事務所のボードに必要な仕事を明記し、仕事の見える化を図ることで優先順位を明確にし、効率よく職員がこなせるよう工夫しています。

・人事評価制度に基づき年2回実施する管理者による職員ヒアリングをもとに、経験年数や要望などを鑑みて体制や配置を行っています。また、OJTサポート体制を整備し、評価と実施内容の記録をもとに人材育成にも取り組んでいます。

・運営の透明性確保のため財務的な内容である予算や決算、「市営保育所運営方針」などをホームページで公開しています。今後は、市全体の予算の関係上難しい部分はありますが、外部監査の活用等による専門家のチェックを実施できるとより良いでしょう。

・近隣の小学校が実施する運動会や避難訓練、作品展に幼児が参加し、年長の作品も展示してもらうなど交流を図っています。また、保育所が実施する人形劇や和太鼓演奏、季節の行事、作品展に地域の親子や民間保育園の幼児を招いて交流を深めています。

・地域子育て支援事業及び地域子育て支援拠点事業を実施し、毎日の園庭開放や、親子半日体験、離乳食試食会などを行っています。また、豚汁パーティーも災害時の対応を想定した一環として地域の親子が参加できるよう開催しています。これらの情報は、市が管理する子育てアプリにて情報発信しています。拠点事業として子育てに不安を抱える家庭への訪問も実施しています。

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果		
				自己評価	第三者評価	
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	28	① 子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	a	a	
		29	② 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した保育が行われている。	a	a	
	Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。	30	① 利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。	a	a	
		31	② 保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。	a	a	
		32	③ 保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	a	a	
	Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	33	① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a	b	
		34	② 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	a	a	
		35	③ 保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a	a	
	Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。	36	① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a	a	
		37	② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a	a	
		38	③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a	a	
		39	④ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている。	a	a	
	Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保	Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。	40	① 保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。	a	a
			41	② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a	a
Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。		42	① アセスメントにもとづく指導計画を適切に策定している。	a	a	
		43	② 定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	a	a	
Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。		44	① 子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a	a	
		45	② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a	a	

[自由記述欄]

・年2回実施する自己評価チェックシートに子どもの人権についての項目があり、共通の理解が持てるよう取り組んでいます。

・未就園児を持つ保護者の園見学を受け入れており、所長が案内するようにしています。見学時にはアンケートを実施し、内容を職員間で共有しています。

・苦情解決の仕組みが整備され、対応しています。また、行事ごとにアンケートを実施し、行事以外の事でも意見や要望が記入できるよう欄を設け、保護者の声を拾うよう努めています。今後は、苦情内容や解決結果、アンケート結果や園の対応や方針などを、内容に配慮したうえで保護者に知らせるなど公表への工夫を行うとより良いでしょう。

・安全対策委員会があり、毎月会議を開催し、園の安全面への配慮に繋がっています。ヒヤリハットやハザードマップも作成しています。ハザードマップは休憩室に掲示し、事故が起こった場所や起こりそうになった場所を付箋で記入し周知に努めています。不審者侵入時のマニュアルを警察からのアドバイスをもとに改定し訓練や研修を実施しています。

・指導計画は年間、月間、週日案と理念に沿った内容で策定され、それらの評価・見直しは毎月の月案討議で実施すると共に、年2回、前期・後期に分けて総括会議を持ち、評価・反省を行い情報共有すると共に、それらの内容は記録され、次の計画に内容を反映させています。

A-1 保育内容

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果		
				自己評価	第三者評価	
A-1 保育内容	A-1-1 (1) 保育課程の編成	46	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	a	b	
		A-1-1 (2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	47	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a	a
			48	② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a	a
			49	③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a	a
			50	④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a	a
			51	⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
			52	⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
			53	⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
			54	⑧ 障害のある子どもが安心して生活でき喜んで遊べる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
			55	⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
	56	⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a	a		
	A-1-1 (3) 健康管理	57	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a	a	
		58	② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a	a	
		59	③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a	a	
	A-1-1 (4) 食事	60	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a	a	
61		② 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている。	a	a		

【自由記述欄】

・全体的な計画が編成されており、組織的に見直しを図り、保育内容が一貫性・連続性のあるものとなるよう取り組んでいます。今後は、保育所保育指針第2章1(2)に示されている「乳児保育にかかわるねらい及び内容」に準じ、3つの視点に合わせて編成されるとより良いでしょう。

・園内には子どもたちの絵画や造形作品が展示されています。各保育室には、こどもの年齢・発達に応じた予算の中で計画的に購入された玩具や教材が豊富にあり、長く愛用されています。また、各部屋にはコーナー保育のスペースがあり、「京都市版環境評価スケール」を活用し、子どもたちが遊びに没頭できる環境が構成されています。

・乳児は育児担当制を取り入れ、特定の大人との信頼関係を構築させ、安心して過ごせるよう配慮しています。市共通の「丁寧な育児行為」やストラテジーシートを活用し、乳児との安定した関わりによって、より良い育ちに繋がるよう取り組んでいます。

・毎日、年長児は演奏会と称して和太鼓や楽器の演奏を披露し、それを年齢が下の子どもたちが見に行き、憧れを持って年長児になれるようにしています。

・園内で菜園活動を行っており、そこで採れた大根を豚汁パーティーと称してクッキングで使用しています。また、園で取り引きをしている魚屋さんが定期的に子どもたちの前で魚をさばってくれるなど、食育活動に取り組んでいます。

A-2 子育て支援

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-2 子育て支援	A-2-(1) 家庭との緊密な連携	62	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a	a
	A-2-(2) 保護者等の支援	63	① 保護者等が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a	a
		64	② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a	a
	A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	65	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a	a

[自由記述欄]

・日々の保護者対応の他に、0歳児は24時間の日課表、1~2歳児は保護者との連絡ノート、3歳以上児は必要に応じて連絡帳を利用し、家庭との連絡連携を取っています。また、それらの内容について基準を定め職員が共通認識を持てるようにしています。

・年3回クラス懇談会を開催し、保護者同士が交流したり園の保育方針について話し合ったりできる場を設けています。家庭訪問や個人懇談の記録があり、必要な情報は職員間で共有しています。

・市営保育所所長研究会で作成した自己評価チェックシートを年2回実施し、評価結果を集計し、職員の傾向などを把握するようにし、保育の振り返りや職員指導に活かすようにしています。